

ななかまど

一般社団法人 猿払ななかまどの会 会報

令和3年11月1日(月)

第40号

発行：一般社団法人

猿払ななかまどの会 事務局

週刊「さるふつ・風だより」はFacebookで検索するとみられます。

コロナウイルス、収束するか？ もうひとがんばり！

緊急事態宣言が解除され1ヶ月が過ぎました。北海道では新たな感染者が「0」の日も何度かみられるようになりました。飲食店街では時短営業やアルコールの提供も解除され賑わいが戻りつつありますが、一定の規制はまだかかっています。食事中は「黙食」、会食人数は4人まで、飲食以外はマスク着用等々。入場の際「ワクチン接種証明書」の提示も求められるところもあるようです。免疫力の低下に伴い、ワクチン接種後8ヶ月が過ぎた高齢者や基礎疾患のある方々に3回目のワクチン接種の計画もされているようです。

早くコロナ前の日常に戻って欲しいと思うのは私だけではないはずです。しかし、コロナウイルスも変異を繰り返しなんとか生き延びようとしています。毎年冬に流行するインフルエンザと同じようにワクチンを打って「withコロナ」共生していくしかないのでしょうか。取り敢えず感染予防（三密を避ける、うがい手洗い、マスクの着用等）を徹底し感染者数を今よりもっと減らしていきましょう。

三回目のイベント、ご協力ありがとうございました。

10月23日(土)に今年3回目のイベント「和菓子とパンの販売会」を道の駅さるふつ公園内「猿払まるごと館」で開催しました。今回の和菓子は「うぐいす餅」と「きな衣」。パンは新たに「唐揚げパン」「ちくわパン」が登場。餡パンや塩パンはパン生地を増量してボリュームを出しました。

また、高等養護学校の実習生のレシピで焼いた「レーズンパウンドケーキ」も販売させて頂きました。

道新や日刊宗谷にも取り上げて頂いた事もあって、オープンの11時にはたくさんの方々に越し頂きお買い求め頂きました。うぐいす餅を3パックとかきな衣を2パックとかまとめ買いされる方もいらっしゃって、本当に感謝です。閉店時には2ケース程度余ったパンもオホーツク海陸様のご協力出張販売させて頂きほぼ完売しました。有り難うございました。

4回目のイベントの開催を望む声も聞かれましたが、冬に向かい雪の影響で道路事情も悪くなります。チャンスを伺いながら開催に向けて努力したいと考えています。



放課後塾の子ども達が作ったおしながき

若いお母さん、パン作りに初挑戦!

会報ななかまどで呼びかけていました、「パンを焼いてみませんか」の呼びかけに答え、先日浜鬼志別の若いお母さん二人が、パン作りに挑戦しました。

作ったパンは、あんパン、バターロール、ウィンナーパン、ハムチーズパンの4種。

1次発酵後の切り分けや丸めるのに苦労していたようですが、焼きたてのパンをみて「おいしそう!」との声。



終わってみればなかなかのできばえでした。また別のパンもしたいとのことですので是非次回挑戦して下さい。お待ちしております。

楽遊館ではパン作りの経験がなくても相談して頂ければ、材料、消耗品、作り方、機械の動かし方までお教えしますので、「やってみたい」と思われたら連絡下さい。2~3人が集まればベストです。(お問い合わせは直接楽遊館か、電話4-7111まで)

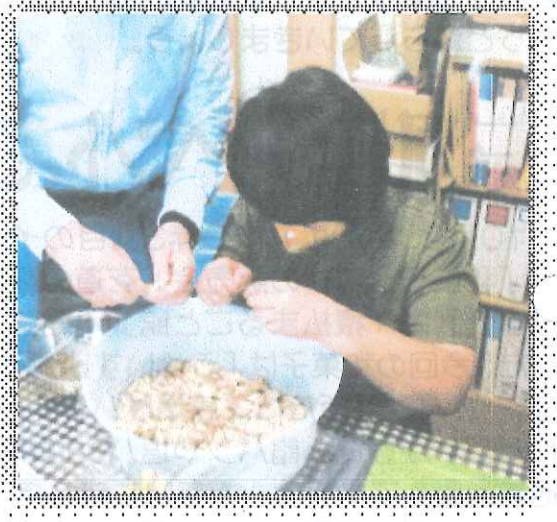
稚内養護学校高等部1年生体験実習

10月は稚内養護学校高等部の1年生Mさんの職場体験実習を受け入れました。期間は1週間。Mさんは拓心中学校特別支援学級卒業です。

皆さんご存じのとおり「障がい者」といっても障がいの程度は人様々で、当然出来ること出来ないことが違います。先月の実習生に出来た事がMさんも出来るとは限りません

最初Mさんには「粗大運動」として館内の清掃を経験してもらいました。掃除機かけやモップかけなどあまりうまくいかなかったようです。

ただ、「微細運動」のにんにくの皮むきはMさんの適性にマッチしたようで、一言もしゃべらず時間いっぱい集中して作業出来ました。最初はなかなかむけなかった皮も時間が経つにつれて上手にむけるようになりました。1年生のMさん。あと2年で卒業。卒業後は今のところ猿払村に戻ってきたいということです。Mさんの働ける場所が絶対必要になります。なんとか力になりたいと思う「ななかまど」です。Mさんにもあと2年間がんばって、出来ることをたくさん増やして欲しいと思います。



障がい福祉サービス事業所を開設するために作業場が必要です。終活や移転で不要になる建物があればお譲り下さい。